

株主の皆様へ

第131期 中間報告書

2021年4月1日

▼
2021年9月30日

株主の皆様へ

平素は格別のご支援とご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
ここに第131期第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の事業の概況等について、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、新型コロナウイルス変異株の流行など依然予断を許さない状況が続いていますが、新型コロナワクチン接種の進展などにより、国や地域によるばらつきはあるものの総じて経済活動の回復が進みました。日本経済は、海外経済の回復に伴う輸出の増加などを背景に製造業は堅調に推移しましたが、宿泊・飲食などのサービス産業は度重なる緊急事態宣言の発令により厳しい経営環境が継続しました。

当社グループを取り巻く経営環境は、半導体分野においては、5Gスマートフォンに加え、デジタル化やそれに伴うインフラ整備の加速によりデータセンター関連機器やパソコン・タブレット端末などが前期に引き続き活況を呈したことから、半導体の需要が拡大しました。自動車分野においては、4-6月期は前期からの繰越需要などが下支えとなり増加傾向を示していましたが、7-9月期は世界的な半導体チップ不足の影響などにより自動車工場では生産を一時停止するなど、堅調な需要はあるものの販売台数は減速しました。また、国内の新規住宅着工件数は、国土交通省の発表によりますと、4-9月累計で前年同期比7.6%増となりました。

当社グループは、このような経営環境の中、「プラスチックの可能性を広げ、お客様の価値創造を通じて、『未来に夢を提供する会社』をビジョンとし、『SDGsに則し、機能性化学分野で『ニッチ&トップシェア』を実現、事業規模の拡大を図る』を基本方針に掲げて、変化する社会のニーズや課題の解決に貢献することで持続可能な社会の実現を目指して事業運営に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上収益は、変化する価値観や多様化するニーズを柔軟に捉え取り組んできたことに加え、昨年10月の川澄化学工業株式会社の連結子会社化に伴う売上増加があったことから、前年同期比42.3%増加し1,283億15百万円と、381億14百万円の増収となりました。損益につきましては、事業利益*は前年同期比181.7%増加し136億62百万円となり、営業利益は前年同期比243.3%増加し135億22百万円となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で224.8%増加し102億77百万円となりました。

中間配当金につきましては、1株につき50円（前期の中間配当金に比べ20円の増配）とさせていただきます。

当社グループの通期業績は、自動車市場における半導体不足の影響や原材料価格の高騰等、先行きの懸念はありますが、売上収益、利益ともに前期を大幅に上回る見通しです。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

* 当社グループでは、持続的成長を図るため管理すべき重要な指標のひとつとして「事業利益」という段階利益を導入しております。「事業利益」は、「売上収益」から「売上原価」と「販売費及び一般管理費」を控除して算出しております。



2021年11月
代表取締役社長 藤原一彦

決算ハイライト

売上収益

1,283億15百万円
前年同期比 42.3%増 ↗

事業利益

136億62百万円
前年同期比 181.7%増 ↗

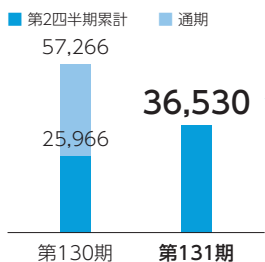
親会社の所有者に帰属する四半期利益

102億77百万円
前年同期比 224.8%増 ↗

半導体関連材料部門



売上収益 (単位: 百万円)



売上収益

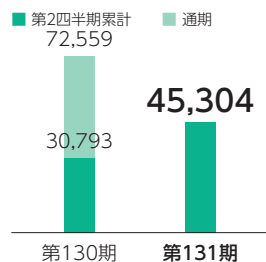
365億30百万円

前年同期比
40.7%増 ↗

高機能プラスチック部門



売上収益 (単位: 百万円)



売上収益

453億4百万円

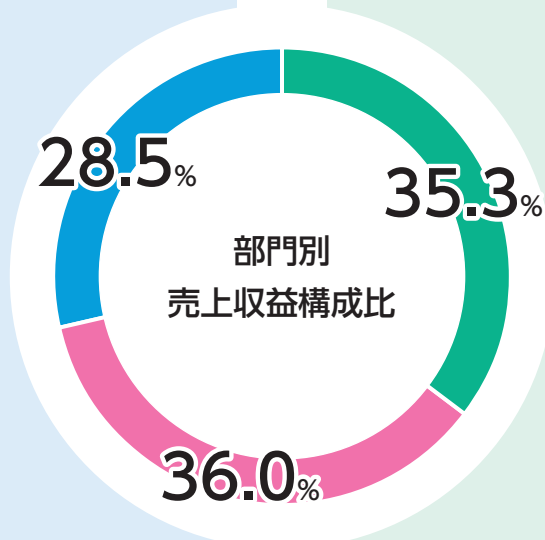
前年同期比
47.1%増 ↗

半導体封止用エポキシ樹脂成形材料および半導体用ダイボンディングペーストは、世界的な半導体需要の拡大により、売上収益は大幅に増加しました。今後の更なる需要拡大に備えるべく半導体封止用エポキシ樹脂成形材料においては、海外の各拠点で新たに生産ラインの導入を計画しており、2022年から中国と欧州で、2023年から台湾で順次生産を開始する予定です。感光性ウェハーコート用液状樹脂は、旺盛なメモリー需要により、売上収益は増加しました。

半導体パッケージ基板材料「LαZ」シリーズは、5Gスマートフォンの需要増加等で、売上収益は増加しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響が最も顕著だった前年同期と比較して自動車市場が大きく回復したことで、工業用フェノール樹脂およびフェノール樹脂成形材料は大きく回復しました。これに加え、トランス用ポピン材や銅張積層板などの電子部品向けが堅調に推移したことにより、売上収益は大幅に増加しました。

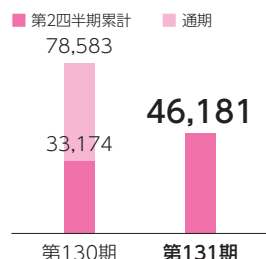
航空機内装部品は、市場環境に明るい兆しは見られたものの本格的な回復には至っておらず、売上収益は減少しました。



クオリティオブライフ関連製品部門



売上収益 (単位: 百万円)



売上収益

461億81百万円

前年同期比
39.2%増 ↗

医療機器製品は、昨年10月に川澄化学工業株式会社を当社グループに加えたことにより、売上収益は大幅に増加しました。同社は、本年10月に当社グループの医療機器事業の中核を担うべくS Bカワミ株式会社として新たにスタートしました。これから更なる経営の効率化を進めるとともに、成長領域である血管内治療や内視鏡治療などの低侵襲治療*分野において、独創性のある高度な医療機器の開発と安心・安全な製品の供給に努めてまいります。

バイオ関連製品は、検体保存容器や細胞培養製品などのバイオ用プラスチック消耗品が世界的に品薄となる中、生産体制の強化により供給量を増大し、売上収益を大きく伸ばしました。また、新型コロナウイルスPCR検査用部材の安定生産と供給に取り組みました。ビニル樹脂シートおよび複合シートは、半導体需要の拡大により、電子部品搬送用のカバーテープや半導体製造工程用のダイシングテープなどの産業用フィルムで、売上収益が増加しました。

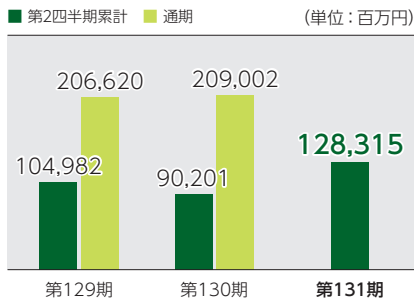
ポリカーボネート樹脂板および塩化ビニル樹脂板は、主力の土木建材向けやエクステリア用途が回復したことに加え、サングラス等に使用する偏光板の欧州向けの需要が再開したことにより、売上収益は増加しました。

防水関連製品は、新規住宅着工件数の回復に伴い住宅（新築・リフォーム）向けを中心に、売上収益が増加しました。

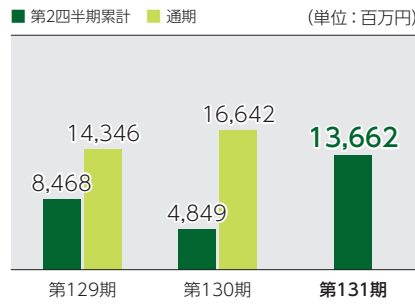
* 低侵襲治療とは、内視鏡やカテーテルなどを用いた、苦痛の少ない、身体にやさしい手術により、患者の負担を軽減する治療法です。

連結業績ハイライト

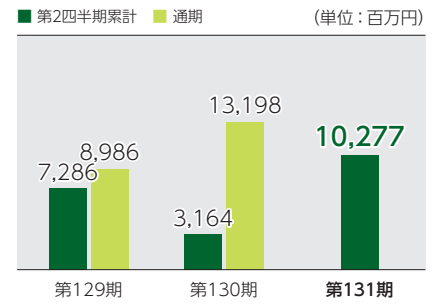
● 売上収益



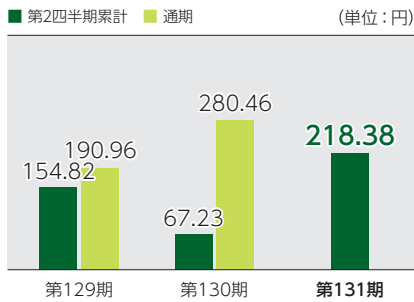
● 事業利益



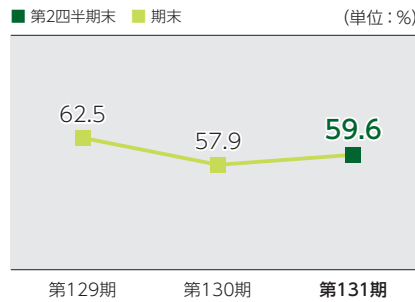
● 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益



● 基本的1株当たり四半期(当期)利益



● 親会社所有者帰属持分比率



財務状況

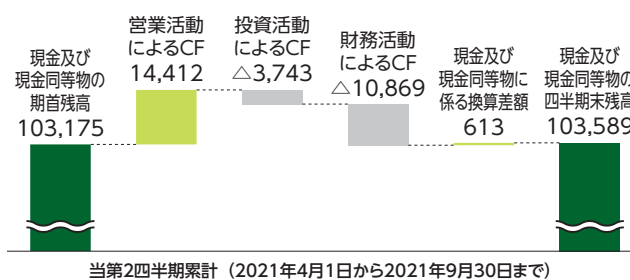
● 連結財政状態計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	前期末 (2021年3月31日現在)	当第2四半期末 (2021年9月30日現在)
資産		
流動資産	199,149	205,980
非流動資産	146,615	145,046
資産合計	345,763	351,026
負債		
流動負債	99,440	98,303
非流動負債	44,182	41,447
負債合計	143,622	139,750
資本		
親会社の所有者に帰属する持分	200,205	209,263
非支配持分	1,936	2,013
資本合計	202,141	211,276
負債及び資本合計	345,763	351,026

● 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)



● 連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	前第2四半期累計 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)	当第2四半期累計 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)
売上収益	90,201	128,315
売上原価	△ 64,175	△ 88,220
売上総利益	26,025	40,096
販売費及び一般管理費	△ 21,176	△ 26,433
事業利益	4,849	13,662
その他の収益	81	64
その他の費用	△ 992	△ 205
営業利益	3,938	13,522
金融収益	670	596
金融費用	△ 308	△ 160
持分法による投資損益	△ 37	—
税引前四半期利益	4,264	13,957
法人所得税費用	△ 1,084	△ 3,509
四半期利益	3,180	10,448
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	3,164	10,277
非支配持分	16	171
四半期利益	3,180	10,448

会社概要 (2021年9月30日現在)

設立	1932年1月25日
資本金	37,143,093,785円
従業員数	7,891名 (連結)

株式情報 (2021年9月30日現在)

株式の種類	普通株式
単元株式数	100株
発行可能株式総数	160,000,000株
発行済株式総数	49,590,478株
株主数	10,222名 (うち単元株主数6,965名)

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
住友化学株式会社	10,509	22.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	6,012	12.78
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,614	5.56
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	2,448	5.20
株式会社かんぽ生命保険	1,215	2.58
株式会社日本カストディ銀行・三井住友信託 退給口	873	1.86
株式会社三井住友銀行	872	1.85
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	718	1.53
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	597	1.27
野村信託銀行株式会社(投信口)	585	1.24

(注) 1. 当社は自己株式2,533千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
2. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しております。

役員 (2021年9月30日現在)

取締役および監査役

代表取締役会長	林 藤 原 一 茂
代表取締役社長	藤 原 垣 昌 彦
取締役	稲 朝 隈 純 幸
取締役	朝 中 村 剛 隆
取締役	中 桑 木 剛 一 郎
取締役	小 林 剛 孝
社外取締役	阿 松 博 和 之
社外取締役	永 寺 島 博 和 恵 津 子
常勤監査役	青 山 沢 常 夫
常勤監査役	青 山 木 重 彦
社外監査役	山 岸 勝 和
社外監査役	川 手 典 彦

執行役員

社長執行役員	藤 原 一 彦
副社長執行役員	稲 朝 隈 純 幸
専務執行役員	朝 中 村 剛 隆
専務執行役員	桑 木 剛 一 郎
常務執行役員	小 林 剛 孝
常務執行役員	倉 知 圭 介
常務執行役員	鈴 木 淳 司
常務執行役員	文 田 雅 哉
常務執行役員	竹 崎 義 一
執行役員	鈴 木 清 暢
執行役員	指 輪 暢
執行役員	指 輪 暢
執行役員	ア レ ッ ク ス ゲ ス ケ ン ス
執行役員	藤 治 村 宣 久
執行役員	鍛 屋 伸 一
執行役員	中 西 久 厚 雄

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会：毎年3月31日 期末配当金：毎年3月31日 中間配当金：毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告方法	電子公告により行います。 http://www.sumibe.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031
ホームページ	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

お知らせ

- 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について**
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会につきましては、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。
- 除斥期間満了後のお取り扱いについて**
配当金は、支払開始の日から満3年(除斥期間)を経過しますと、当社定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。
- 特別口座について**
株券電子化前に「はふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についての住所変更等のお届出およびご照会、上記の電話照会先をお願いいたします。

 住友ベークライト株式会社

東京都品川区東品川二丁目5番8号

ホームページ <https://www.sumibe.co.jp>



レスポンシブル・ケア®

